

戦

別海中央中学校 3 学年
学年通信 最終号
平成 28 年 3 月 11 日
文責：魚岸 弘嗣

よくもまあ、ここまで成長したもんだ♪

君たちは、学年の先生をすべて覚えているだろうか。

1 学年

平田友和先生、小路明日香先生、北見将嗣先生
越野奈緒美先生、松野明先生、竹村さゆみ先生、魚岸弘嗣。

2 学年

平田友和先生、小路明日香先生、三島千可子先生
原田康子先生、佐藤優好先生、魚岸弘嗣。

3 学年

平田友和先生、小路明日香先生、神尾雅敬先生、原田康子先生
谷村舞先生、魚岸弘嗣。

普段はたいして意識しないが、学年だけの行事、1 年で言えば遠足、2 年で言えばキャンプ、3 年で言えば修学旅行、そういった行事で一緒にいた先生を考えると思い出せるのではないかと思う。

あ、気付いた？ 担任の平田先生と小路先生の他に、もう 1 人だけ、3 年間ずっと居続けたあいつのことに……。

まあ、ひどかったね、入学してからの君たち。けんかっ早い人、他人に傷付けることを言っても自分では気付いていない人、家庭学習をやらない人、提出物を出さない人、何も主張せずただ一人で泣いている人、これらの人をまとめられずにリーダーとしてどうして良いか分からなくなった人。そして、そういうのに関わるのを嫌がるように、自分からは何も行動しない人もたくさんいたように思える。「あ、自分のことだ」って、誰もが思えるよね。

魚岸は怒鳴った。担任を差し置いて、怒鳴り散らした。こんなこともできないのか、こんなことくらいできてくれ、そんな気持ちで普段は出さない声で怒鳴った。普段は 1 対 1 で「チャーシュー麺」と注文しても、「は？」と聞き返されるくらい声が通らない魚岸の声も、怒っているということが伝わるくらいには通った。それで渋々指示に従う、君らの 1 年生はそんなところだった。

最近になって、ちょっと感じるんだ。君らに怒鳴ることがなくなったなって。何か言いたいことがあっても、ニコニコしながら近づくだけで、言わなくても言いたいことを察知して、それをなおそうとする。君らがそういう動きをするようになったのだ。

3 年生の初めのころは、「おいおいおいおい、こらこらこらこら、あ、気付いたか……。」という感じで、注意しにいこうとしたらその前に気付いたということが多かったが、最近では目が合うだけでハッとすることが増えてきたように思える。そんなことだから、魚岸も怒鳴らない。怒鳴る必要がないと言った方が正確だろうか、最近になってそう気付いたのだ。

もうすぐ君らは卒業する。私たちの手の届かないところにいってしまう。逆に言えば、君らからも私たちに頼ることができなくなってしまった。本音を言えば心配だ。本当に君らが自分の問題を解決していけるのか、それは中学校生活を終わろうとしている今でも心配だ。でも、心のどこかで、君らならやってくれそうな気もしている。君らの中学校生活の先にある延長線上に何かしらの壁が立ちはだかっても、自分で、もしくは仲間たちと、おとなの手を借りることなく、自分たちだけで解決できそうな気がするのだ。気がするだけかもしれないけど。フフッ♪

どんな気持ちで 3 日後をむかえるの？ どんな気持ちで卒業証書を受け取る？ どんな気持ちで、最後の合唱を歌うの？ こういう気持ちで卒業したいというその気持ちを、この土日で作っておいで。君らの思う最高の卒業式をむかえてほしいから。